



坪井は夏目漱石が最も愛した地。夏目漱石内坪井旧居にはそんな漱石の遺品が展示されている

清正公以来、まちの発展を見つめてきた熊本城のお膝元
壺川 校区は熊本城の北側に位置し、明治以来熊本市の発展を見つめてきました。地理的には京町台、寺原・壺川、坪井に分かれます。熊本城に近い京町台は旧豊前街道沿いの高台に広がり、お寺や昔ながらの街並みが残る一方、

ふるさととの唄と収穫のよろこびが世代をつなぐ
地形 的、歴史的に異なる壺川校区が一つにまとまる

坪井は、熊本の歴史・文化の香りが残る地区。幕末の思想家横井小楠の出身地であり、文豪夏目漱石が五高教員時代に暮らした旧居も現存しています。地区にある壺川小学校は、日本画の大家堅山南風（熊本市名誉市民）が通った歴史ある学校で、校内には南風が泰山木を描いた「雨霽」が飾られています。

は、地域の人たちの努力と工夫が必要でした。すべての世代が一つになって支え合うための組織として平成24年4月に校区自治協議会が発足。校区のネットワーク形成に、各種地域活動団体が力を発揮できる体制が整いました。

壺川校区自治協議会の主海偉佐雄会長は「自治協議会は発足しましたが、校区のみなさんの気持ちの一つにまとめるものにならなければならない。カラー（色）なのか、大きな樹木なのか、いろいろと校区の人たちと知恵を出し合った結果、唄があると考え、そこから『壺川ふるさと音頭』が誕生しました」と語ります。『壺川ふるさと音頭』は、作詞、作曲、歌とも壺川校区の人によって制作され、平成25年に完成。さっそく壺川小学校の各クラスに配られ、校区の歴史と地域の営みを子どもたちに伝える役目を果たすとともに、校区でのさまざまなイベントで披露・活用されています。

京町から坪井川を見下ろす。壺川校区の3つのエリアが一望でき、その特徴が分かる



収穫を通じてつながる 校区の「心」



平成25年11月に行われた「プレイパーク収穫祭」。参加者は、0歳から83歳まで、150人を超えた